

第1回看護研究会 (新任看護師教育研修会)

●日 時 令和5年6月14日(水) 10:00~15:55
●開催方法 ハイブリッド開催(会場:岡山県医師会館)

●出席者 34病院228名(うち会場14病院51名)、委員12名

講演 ホスピタリティ・マインドでハートフルな仕事を! ~感謝の気持ちを込めて~

講師 株式会社タンタビーバ 板谷 和代 取締役



私たちは、働くために生まれて来たわけではないのかもしれない。でも、しあわせな人生を生きるために生まれてきたのは確か! だとしたら、成長の糧として「仕事がある」ということは、とても嬉しいことである。「働く」とは、誰かの役に立つことである。その結果、その誰かも私もハッピーになれるなら、働くって本当に素晴らしいことだと思う。迷うときや辛いとき自分自身と対話してみよう。私は、なぜ働いているの? 私は、なぜこの仕事を選択したの? 問題を自分の側に捉え、自分で解決策を決める。過去と他人は変えられないけれど、自分が変われば未来を変えることができる! いい事があるから笑うんじゃない、笑っているからいい事がある。

ハートフルな仕事に欠かせないマナー=相手への思いやりの心である。「思い」は目に見えないがマナーにすると見え

る。まず思うこと。そして相手に確実に伝える手段としてマナーは大切な役割を果たす。マナーの基本原則は、①身だしなみ ②挨拶・お辞儀 ③態度・表情 ④言葉遣いである。社会生活の基本ルールはもちろん、病院外でのふるまいにも細心の注意を払う必要がある。

ホスピタリティ・マインドでプロフェッショナルを目指すには、【I like me! (自己肯定感) × I like you! (感謝) = I will be OK! (自己効力感)】となる。I like me! (自己肯定感)のためには、強みを磨いて活躍して、毎日「笑顔」でいること。I like you! (感謝)のためには、私と異なるあなたがいてくれて、ありがとう!と感謝をすること。そうすることで I will be OK! (自己効力感)となり明るい未来へ。ハートフルな気持ちの先に、成果がある。(看護研究委員 三宅尚美)

講演 新人時代を乗り越える -心を守り自分を育てる7つの考え方-

講師 愛媛大学医学部附属病院 総合臨床研修センター 助教 内藤 知佐子 先生



新時代を乗り越えるためには自己理解、他者理解が必要である。コロナ禍で十分な実習ができなかったため技術や態度を学ぶことができず入職をした新人は、コミュニケーションや自己開示が苦手でありリアリティショックが大きい。リアリティショックへの対処は、職場に馴染めるよう初期の職場適応を促すこと、計画のスキルをトレーニングすることが大切である。また、リアリティショックを受けた時の注意する症状〈心理的反応〉〈生理的反応〉〈行動的反応〉についても知っておく必要がある。

他者理解については、4つの世代の特徴を理解し対応することも必要である。何が分からないかが、分からないのも新人の特徴である。分からないことではなく、分かっていることを伝えるのも一つの手段である。先

輩をその気にさせるコツは、①誘いの言葉は、見込みの証 「ありがとうございます」で受け止め不安に感じていることを伝える ②前回、指導されたことを事前に振り返り、前回教わったことで大事にしていることを伝える ③挨拶は自分から出向くことである。

心を守り自分を育てる7つの考え方は、学習者に求められる7つの心構えである。その心構えとは、①人は必ず伸びる ②教育の完結は自分が変わること ③フィードバックは受け入れる ④自分を開く ⑤相手の価値観を捉える ⑥礼節をわかまえる ⑦理不尽なことには屈しないことである。

最後に「すべての出来事は あなたへのギフトである」との言葉で締めくくられた。

(看護研究委員 窪木員枝)